

【ものづくり 人づくり 地域づくり】

シリーズ 常総生協 40 周年 「わたしのせいきょう 3世代が綴る みんなのひとことメッセージ」

紹介スタート



つくば市のかがりちゃん(11歳)が書いてくれたものに職員がぬり絵をしました!

【ご連絡(予告)】40周年に向けた事業計画

【第1弾!】2月から石けん・雑貨(123アイテム)が毎週注文できるようになります。(右「別冊」)

【第2弾!】3月から基礎調味料・食品・菓子(ドライ商品275アイテム)も毎週注文できるようになります。原材料も一括表示されている「別冊」になります。

【第3弾!】3月1回から商品カタログ(COOP-MAIL JOSO)が生鮮品・旬を中心にした「Weeklyカタログ」にリニューアル。生産者・産地紹介や商品解説、表示、レシピが充実します。注文用紙(OCR用紙)も変わります。(毎週注文できる調味料・食品・菓子・石けん類がOCR裏面に商品名表示されます)



「別冊」になる石けん雑貨類(2月1回より)

40周年「わたしの生協 ひとことメッセージ」(組合員)

〇がんばってきたなぁ

会員が300名になったら、生協が作れるということから、加入しました。取手生活協同組合から、常総生活協同組合に名称を変えて、今日まで来ました。がんばってきたなぁと思います。初めの頃は色々ありました。紫色に変色した板のりが配達されたり、とまどうことばかりでした。今の岩瀬さんの豚肉の前肉ですが、豚舎が火事になって豚肉がなくなったり、お豆腐屋さんが高齢でやめてしまったり、共生食品のギョウザの皮がなくなったり、ハイムが倒産したり、首都圏事業連合と決別してなじみの商品が買えなくなったり、色々ありました。それも独自性の発揮で良かったと思っています。高齢化は生産者にも消費者にも言えて、その上食生活・食文化が多様化し正念場だと思います。(取手市 Kさん)

〇安心は私たちの宝

お世話になります。常総生協さんの出来た時からの会員です。子供に良いものを無農薬のものを！最初の頃は薬物がすじだけで配達されてきたことがありました。虫のほうが強くて。私達の班はその品を返品せずに買い取りました。安心！私達の宝です。皆様の努力のおかげで安心して、おいしく食事が出来ます。感謝です。今後共、どうぞよろしく頑張ってくださいませ。ありがとうございます。(取手市 Sさん)

〇愚直なまでの真面目さ

昔、近所に徳永さんという方がいて、その方に常総生協をすすめられました。最初は「石けん生協」というくらい粉石けんを売りにしていた様子でした。それ以来ずーっと石けんを使っています。毎年、味噌や梅干しを作る様になったのも常総さんの影響です。好きなところは愚直なまでの真面目さでしょうか。いつも同じ姿勢ですね。特に3.11の震災以後の数多くの対応には頭が下がります。数々の行事に参加したいのですが、車を所有していないので、チョット無理です。行事の報告の紙面を読んで楽しんでいます。(取手市 Iさん)

〇子どもを連れて仕分け作業にも

常総生協40周年おめでとうございます。もう40年経つんですね。東京から守谷へ引越して40年。

当時6才と2才の子を抱えてお店らしきものは何へにもない田舎暮らしを支えてくれたのが取手市に発足した「常総生協」でした。守谷へ移転してからは子供を連れて仕分け作業のお手伝いにも何度か通いましたっけ・・・食の面で本当に助けて頂きました。ありがとうございます。キムチ・味噌・昆布巻き・・・いろいろな講習会にも参加させて頂き勉強になりました。今は老夫婦？2人きりの生活になりましたが、まだまだお世話になります。よろしく願い致します。近々建物も新しくなり、「常総生協」の増々のご発展を祈念致します。(守谷市 Mさん)

〇若い組合員ガンバレ！

「私の生協」・・・一言で言えませんですね！守谷に出来たとき、下村進さんに誘われて生協の組合に入会した。やがて会員だけでなくパートで仕事をする事になりいろいろと商品も知り、車の横に乗り、組合員さんに荷物を届けに行った事もあります。取手方面で「ごくろう様」と言われたときは嬉しかった。今はただの会員ですがこれからも生協のことを思い、商品が続けて良いものは買い続けていきます。先日、(建て替えのため更地になった)何もない前の生協を見てこれから若い組合員にいっぱいガンバレと心で思ってきました。(でも、もっと古い私も含めて「全員で」もいいたかったです)。(守谷市 Sさん)

〇団地のお母さん達が

40年前、団地のお母さん達が安全な食品をということで作った、その時のメンバーではないですがその頃に入会しました。約40年、生産者の顔が見えるもの、楽しい企画を立てて下さるので嬉しい。本当は畑づくりやら新しい農地の開拓などしたいのですが、年齢を乗り越えられるでしょうか、やれることは参加させてください。(取手市 Sさん)

〇そうよ生協のだから！

立ち上がりの取手生協以来です。その時は、井野団地に住んでいました。その頃は、あまり品数がなくて。今は食材の85%は生協からです。「これ美味しいね。そうよ生協のだから・・・」というのが我が家のいつもの会話です。ただ、常総生協独自

以外のチラシには参っています。どうして同じようなチラシが毎週入るのでしょうか？半年くらいとか、1年くらいとかにならないのでしょうか。（取手市 Sさん）

〇懐かしい思い出

古い古いプレハブ事務所、みそ作り企画1回目1俵の袋で買い入れた大豆を1K gづつに分ける作業、やまこ味噌さんにこうじを企画のお願い、組合員理事としてかかわれたこと懐かしい思い出。ニューステアが充実してきてやっと発信する生協になったと思います。多くの方が受けとめてくれるようこれからも発信続けてください。（守谷市 Tさん）

※この先輩組合員のお手紙で、常総生協毎年恒例の「味噌づくり」は30年以上も前から続いていることがわかりました。ありがとうございました。

〇まだ若い30代でした

会員番号 000012 ですので、常総生協ができてすぐに参加したように思います。まだ若い30代でした。子供たちに安全なものを食べさせたいと思っていました。色々お手伝いもさせて頂き、戸頭店を作る時、土地探しをしたのが懐かしいです。私も70代になり、家族も夫と2人だけになりました。安全でおいしいものを手に入れられる事を感謝して利用させて頂いています。（取手市 Oさん）

〇われながら、よくまあ40年も

田舎暮らしで一寸引っ込んでいた地域（小文間）ですので、買い物に行くのがバスで帰るのが大変で重労働ですので、若菜徳則さん（創設者）から出来たばかりの生協をすすめて、ご近所5人位で入らせていただきました。今では私ただ一人となりましたが、商品は良心的ですし、安心して使わせていただけ本当に良かったと感謝の念一杯です。われながら、よくまあ40年もお世話になったことと感無量です。料理が大好きな私は、娘に言わせると、何かと小うるさく？とまれておりますが、つまり良いものを使い家族に美味しいものを食べさせたい一心ですので。ありがとうございました。今後とも、どうぞよろしくお願いたします。（取手市 Kさん）

〇今も続けて利用していますよ

3才・1才の子どもを育てている時、たしか若菜さんが生協の話に来て、近所の主婦5人が入り、子どもに手作りのパンや菓子を研究しながら作り、楽しい時代でした。それから37年、月日の流れが早く感じます。4軒は今も続けて利用させていただいています。（取手市 Kさん）

（※今週は創立当初からの大先輩の声から）

40周年「わたしの生協 ひとつことメッセージ」（生産者）

〇【微生物農法の会・長島さん】

40周年まことにおめでとうございます。常総生協さんとのお付き合いは米騒動（不作の年1994年）からなのでかれこれ20年になります。その間、



勉強会、畑での組合員さんとの交流会、生産者交流会と行き来を通じて色々な出会いがありました。

2011年の原発事故では素早い対応をして下さり大変お世話になりました。ありがとうございます。原発事故による落ち込みはしばらく続くでしょうが、これからもお互いに頑張りましょう！「辛抱ばい」と！

〇【石岡・鈴木牧場さん】

私たちにとっては2つの出会いがあったから、現在の鈴木牧場があると思っています。

1つ目は熊谷先生との出会い、効率を求めた酪農ではなく、健康に牛を飼うことの大切さを私達に教えてくれました。

2つ目は常総生協との出会い、私達が実践していることを消費者の立場から認めてくれ、鈴木牧場の乳製品がほしいと言ってくれたこと。

この2つの出会いが無ければごく普通の酪農家（たくさんの乳を搾って大規模な酪農を目指す）であっただろうし、乳製品加工に踏み出し、鈴木牧場のヨーグルト、チーズを食べたら他のは食べられないという最もうれしい褒め言葉は聞けなかったでしょう。

常総生協のみなさんに出会えたことに感謝です。

2014年秋、次男の嫁さんが決まり、まだ日が浅いの



に牛舎の仕事、チーズづくりと牧場にとってはもうなくてはならない存在になりつつあります。鈴木牧場の今後は二人と相談しつつもどのような将来が拓けていくのか楽しみです。

常総生協は今までどおり、組合員と生産者を強い絆で結ぶことを一番に考えてやって下さい。

組合員さんと一人でも多く出会えることを楽しみにしています。何事も自分の眼で現場を見ることが一番大事。それを忘れないでください。

○【吉田きのご園さん】

常総生協さんにお世話になって20年位経過します。安全安心生産者の顔の見える生産品を納品して、今



つくづく感謝の気持ちで一杯であります。

郡山の農産物を誰が食するのか？ 思いもつかないそれを心待ちにして購入して下さる、生産者にとってかけがえのない喜びであります。特に原発事故以来、売り上げも急降下して先行き不安定の時に生協さんのおかげで何とか風評に負けないで仕事をする事ができます。「はたらく」と云うのは楽にならないときもありますが、頑張ることにより喜びをえることも出来る職業であります。今後共宜しくお願いします。

○【宮城 黒澤重雄さん】

40周年を迎えることができましてたいへんおめでとうございます。

私事ながら40年前と言いますとすでに20代の後半ですが、専業農家として米づくりをスタートしてから10年ぐらい経過した時期です。

その頃は今のようは無農薬や有機栽培がまだそれ程一般的には求められてはいなかったと思います。私はその時はすでに黒澤家の初代の教えである「お天道様と水と田んぼがあれば米はできるんだ。米はとったと言うな、いただくものなんだ。」ということの基本理念にして自然農法という形で米づくりや野菜づくりをしておりました。誰にも理解してもらえない時代でした。今はどうでしょうか、雨後のたけのこのごとくそのような農法が増えてまいりました。

私が常総生協さんとの御縁をいただいたのは平成5年頃茨城の長島さんの紹介でした。早いもので20年以上のつきあいを頂いております。いつも迷惑ばかりかけているものと反省しておりますが、組

合員の皆様方には、より安心でおいしいコメを届けることが最もてっとり早い御返しになるものと心得ております。



日本中にあまたある生協さんの中で、常総生協の職員さんぐらいまじめな職員さんおそらく居ないと思います。まじめは大変貴重なことです。しかし、余裕がないと単なるかたいだけの融通のきかない状況になることだけではないようにお願いしたいものです。

時々常総生協さんから組合員さん向けのチラシや案内状を私共でも見せて頂いております。大変言いにくいことですが、嫌われることを覚悟の上で書きます。

どこまで放射能の汚染の調査を続けていくのかな、といつも思っております。勿論、原発放射能を許すとかこれでよしということでは絶対ありません。ここまで追求するのであれば常総生協さんで扱っているすべての農産物を最低でも無農薬、無化学肥料栽培以上の基準のものだけを組合員さんに届けるべきではないでしょうか。

もう一言付け加えさせて下さい。

「減農薬」や「減化学肥料栽培」等の『環境保全型』と言われる方法での栽培には農薬や、化学肥料、除草剤やホルモン剤等いろいろ使っています。それに安全安心という言葉は絶対につけないでほしいといつも思っております。絶対許すことのできない原発や放射能汚染は少なくとも、3.11の事故後大きく被害としては増大していないと思います。しかし、農産物を栽培している圃場においては毎年毎年施用（散布）されている環境保全型と言われる農法についてその方面の調査研究の方も大事なのではないかと思います。

私は宮城県北太平洋には30分ぐらいのところ宮沢賢治の詩にある「やませ」を最も注意しながら細々とささやかに目立たないように代々米づくりをしております。常総生協の組合員さんとはあまり顔を合わせる機会がありませんが食べてくれる方、待っていてくれる方がいるということは本当に心強い支えになるものです。

最後に常総生協さんの組合員さんは米の味をしっかり理解してくれている人ばかりだと思っております。基本的に私は食べものは安全安心が当たり前、さらにおいしいということがなければ絶対ダメであると思っております。せっかくだいたこの御縁をこれからもしっかりと大切にしていきたいと思っております。